

教育の醍醐味



学校法人安城学園 岡崎城西高等学校

校長 鈴木 和美 氏

教育随想

例年、岡崎市内中学校の校長先生と市内の私立高校の校長・教頭との教育連絡会があります。その時に必ず中学校の校長先生からは、岡崎の子どもたちは岡崎で教育し、立派な人間にしたい旨の話があります。この言葉を聞くたびに各校長先生方の教育に対する責任感と自負を感じます。また私立高校教育への期待であると感じます。それぞれ私学は、建学の精神に基づき、人間教育を進めています。

さて、本校の教育は、創設者寺部だいの教育信念『人間には無限の可能性がある。それを見つけ伸ばすのが教育である』に基づいて行っています。本校での教育は、授業・部活動・学校行事の三つの勉強を頑張ることにより、三年間、楽ではないが楽しい学校生活にすることで、入学した生徒が持っている無限の可能性を伸ばすことです。

私が三年間担任した生徒で、某国

立大学の教授をしている卒業生がいます。自動運転のスペシャリストとして、数年前、「ガイアの夜明け」という番組で大きく取り上げられました。一昨年たまたま校長室に来てくれた彼に、どうやって教授になったのか尋ねたところ、「講師になるのに論文十本、准教授になるのに論文二十本、教授になるのに論文四十本、書けたから」とさりと答えてくれました。これができたのは高校時代に身に着けた体力であったとも言っていました。自転車で通学して、卓球部で夜七時まで頑張り、早朝補習にも皆勤して頑張った体力のお陰だと言うのです。

もう一人、棒高跳びでロンドン、リオのオリンピックに出場し、今年の東京五輪にも出場を目指しているY君のこと。本校の陸上競技部の顧問が、長距離の記録が伸びずしよんぼりしていたY君に、まだやったことがない種目にチャレンジするよう勧め、棒高跳びを始めました。新しい種目にチャレンジし、努力した結果が今日の活躍に繋がりました。Y君と顧問の出会いがかけがえのないものになりました。無限の可能性を見つけ、教員の助言指導を通して立派な人間に成長してくれることは、教育の醍醐味です。(すずき かずみ)



令和3年1月1日

1月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
学校法人安城学園 岡崎城西高等学校 校長 鈴木 和美 氏	
この人に聞く……………	2
放送作家・脚本家 杉浦 理史 氏	
羅針盤……………	2
理科指導員 新 育大	
ふれあい……………	3
六ツ美南部小学校 教諭 神谷 絢香	
特集……………	4
With コロナを生きる ～学校における「新しい生活様式」の取り組み～	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
芝生の運動場 (昭和51年)	
この本を……………	8



言葉で人を幸せにする

放送作家・脚本家

杉浦 理史氏

日本大学芸術学部卒業後、舞台脚本の執筆活動や俳優業を行う。三十歳の時に、NHKの子供番組の企画が採用され、放送作家としての第一歩を踏み出す。その後、数々のアニメでシリーズ構成・脚本を担当。NHKエテレ「シャキーン」「天才てれびくん」「ノージのひらめき工房」「おしりかじり虫」等多くの教育番組を手掛ける。現在は映画の脚本や漫画の原作、作詞など、活躍の場を広げる。また、脚本家マネジメント会社を立ち上げ、多くの脚本家を育てる。

— 放送作家・脚本家を続けてきて苦労したことを教えてください —

テレビ番組の企画を考える「放送作家」という職業は特殊です。入社試験もなく、学歴も関係ありません。そのために、数多くの作品を書いて

認めてもらい、さらに書き続けなければなりません。続けていく中で、言葉を通して作品を生み出すことの難しさを感じています。

ある作品では、第一話の脚本を作り上げるのに、五十回以上書き直し、完成に半年以上かかりました。暗闇が永遠に続くのではと、折れそうになる心と戦い続けた思い出があります。また、作品が認められずに、誹謗中傷を受けることもありました。真実ではない情報が拡散され、俗にいう「炎上」したときには、動悸や手の震えが止まりませんでした。— 仕事をしているときに、どんなことに気を付けていますか —

多くの人が目にする作品なので、たった一人でも傷つけないように気を付けています。例えば、甲子園特集の際に、あるバッテリーにフォーカスしたとします。そこでは対戦相手を「につつき剛腕ピッチャー」として扱いがちですが、実際はこのピッチャーも相当な努力をし、勝ち進んできた高校生です。ドキュメンタリーでもバラエティでも、ストーリーの中で「主人公」を作りがちで、気付かぬうちにそうでない人を傷つけかねないのです。だから「この人が見たらどう思うだろう」と、いろいろな立場の人を意識して作るようにしています。

— この仕事をしていて、やりがいを感じるのはどんなときですか —

放送作家・脚本家は作品を通して人に幸せを運ぶ仕事だと思っています。

作品を見た方から、「主人公みたい」に勇気を出して挑戦しよう」「この時間が生きがいなんだよ」、そんな言葉をいただいたときは、少しは、人を幸せな気持ちにできたかなと感じます。また、私の脚本作品を見て、「こんな脚本家になりたい」と言ってくれたときには、とてもうれしくて、脚本家冥利に尽きると思いました。— 最後に岡崎の子供たちにメッセージをお願いします —

言葉で扱う仕事をしていると、「言葉」があるような気がします。けれど、私は「文字霊(もじたま)」を大事にしています。こうだったらいいな、こうなりたい、という願いを文字に込めて自分だけのノートに書くのです。なりたいたい自分を具体的に書き、時々見返すことで、自分のやりたいことがはつきりします。私も三十歳の頃から始めて、不思議と、だいたいのことが実現しています。多くの人は、思っているもなかなか行動に移せないものです。ノートに文字として書くことで、行動することができると思います。ぜひ言葉を大切に、夢をかなえてほしいと思います。



氏名

すぎうらまさふみ

生年月日

一九七七年

出身校

福岡小学校

福岡中学校



実験後の考察での課題解決のために

理科指導員 新 育大

理科の授業において、課題解決のためには、実験後の考察の時間が重要である。しかし、考察の際に、子供たちそれぞれの実験結果が違うために、話し合いがかみ合わず、子供の主体的な問題解決が図られない授業をよく目にする。子供たちが考えを深め合い、課題を解決するためには、実験結果の共有を図る「結果の整理」が不可欠となる。

A 教諭は、小学校四年生「ものの温度と体積」の単元で、学習したことを生かし、生活に関わって「瓶の蓋がいちばん簡単に開く方法」について考えさせる授業を行った。

実験前、子供たちは「瓶全体を温める」「蓋だけ温める」などの予想を立てた。A 教諭は、今までの実験を振り返らせながら、自分たちで実験方法を考えさせた。瓶を温めたり冷やしたりと、子供たちは主体的に実験に取り組んだ。やがて各班から「蓋が開いた」との声があがった。



子ども同士のつながりを支える

六ツ美南部小学校

教諭 神谷 絢香

長い休業明けの新学期。もともと内気で自分から人と関わることの苦手なAにとって、二年生のスタートは不安なものとなった。授業中や清掃時間は一生懸命な姿を見せるAも、楽しいはずの休み時間には、一人で寂しそうに絵を描いていることが多かった。その度に話し掛け、描いている絵を褒めるのだが、Aは、決まってしまうか首を振るだけであつた。

「何か不安なことがあるの」。そう聞いても黙っているだけで、何度か聞くうちにやっと、「話をしていると横入りしてくる子がいるけど、嫌って言えない。」と、周りの友達との関わり方について不安を口にしただけだった。

「先生が気付けなくてごめんね。」Aにはそう伝え、相手との間に入り、問題は解決した。しかし、Aの様子を見てみると、本当の不安はま

だ解消されていないようだった。これからAが周りの友達と関係を築いていくために、自分の思いを、私や友達に伝えられるようになってほしいと願った。そして、Aにとって必要なのは子供同士のつながりであり、そのために、Aが学級で認められ、自分の思いを口にできる、そんな安心できる場を私が創らなければならぬと考えた。

まず、Aのよさをみんなに知ってもらおうとかけとしたのは、Aの得意な作文だった。雷が怖かったことやどうして雷が鳴るのか父と一緒に調べたこと、そしてへそを取られないように絆創膏を貼ってもらったエピソードが書かれていた。その作文には、普段学校では見せないAの素直な思いや彼女の魅力が詰まっていた。Aは自分で発表することに難色を示したが、みんなに紹介してもよいか聞くとうなずいた。

翌日、私が朗読するAの作文に、子供たちは聞き入った。最後の絆創膏のエピソードの場面では、学級とAに笑顔があふれた。Aが全員の前で見せた初めての笑顔であつた。

さらに、友達同士の関わり場の作るために、一学期のお楽しみ会を開くことに決めた。コロナ禍で制限はあつたが、発想豊かで、絵や工作が得意なAにとってきつと輝ける場になると考えた。そこで早速Aに、会で行うゲーム作りを頼むと、うれしそうに引き受けた。翌日から、A

は材料をもつてきて、すぐにゲーム作りを始めた。「私も作りたい」という子には、「Aに教えてもらった」と声を掛けた。最初は一人で作ろうとしていたAに、「せっかくの会だからみんなに教えてあげて」とお願いした。すると、Aの周りには次第に友達が増えていった。一緒に活動する中で、「折り紙で景品を作るけど、何がいい」と自分から友達に声を掛けるAの姿があつた。友達の「Aちゃん先生みたい」という何気ない言葉に、うれしそうに笑うAの姿があつた。

当日、Aのゲームは大盛況だった。「みんながいっぱい来て忙しい。」とマスクからあふれる笑顔で、Aが私に話し掛けてくる。すると、Aを呼ぶ仲間の声が聞こえた。「はあい」。ゲームに戻っていくA。その笑顔には仲間とつながっている安心感と達成感が見られた。



実験が終了し、多くの班が「瓶全体をお湯で温めると蓋が開いた」と発表した。それを聞いた三班の児童Bは、「瓶ごと温めても開きませんでした」と発言した。Bの発言を、ものの体積と温度の関係について、より理解を深められる好機と捉えた。A教諭は、「三班は、同じ実験だったけれど、なぜ開かなかったのだろう」と問い返した。多くの子供が、瓶を湯につけていた時間に注目した。その考えを裏付けるため、A教諭は三班に再実験をさせた。「どのくらい温めたらいいだろう」。そう子供たちに問いながら、実験を進めさせる。子供たちが見つめる中、Bが瓶を取り上げ、蓋を回す。簡単に蓋が開くと同時に、全員から歓声が上がった。

その後「瓶全体を温めると蓋が開く」という結果を共有したことで、子供たちの話し合いは充実したものとなった。金属の蓋が温められ体積が膨張し、瓶と蓋の間に隙間ができたことを考察することができた。Bも再実験を通して、金属の膨張という見えないう事象について、実験結果を根拠にして考えることができたのである。

理科の楽しみは、観察や実験ができることだけでなく、その実験の結果から新たな発見や見方・考え方を獲得できることにある。そのために、「結果の整理」の場における、教師の出が重要となる。

With コロナを生きる

～学校における「新しい生活様式」の取り組み～



▲マスクとフェイスシールドをつけての話し合いの授業(細川小)

フェイスシールド (竜海中)

行事を工夫して、とてもよい。命や安全を思いまし、コロナを乗り越えたいです。



子供の声

の進め方を考え、dの利用やグルなど工夫して行いことを創り上げて柔軟な考えました。



まめな手洗い (山中小)

声(課題)

保護者への連。の心のケア、など、普段よ

が必要になり中止したり紙した。PTA

切さを実感し

新型コロナウイルスの感染症拡大に伴い、国から全国一斉の臨時休業の措置が示された。岡崎市内の小学校、中学校においても令和二年三月二日から六月一日までの約三か月間、休業とした。

過去に経験のないことであり、戸惑いや不安が広がる中、各校は休業期間中も、感染症対策や学習機会の保障について工夫を凝らし、様々な対策を考えながら、学校再開に向けて準備を進めた。

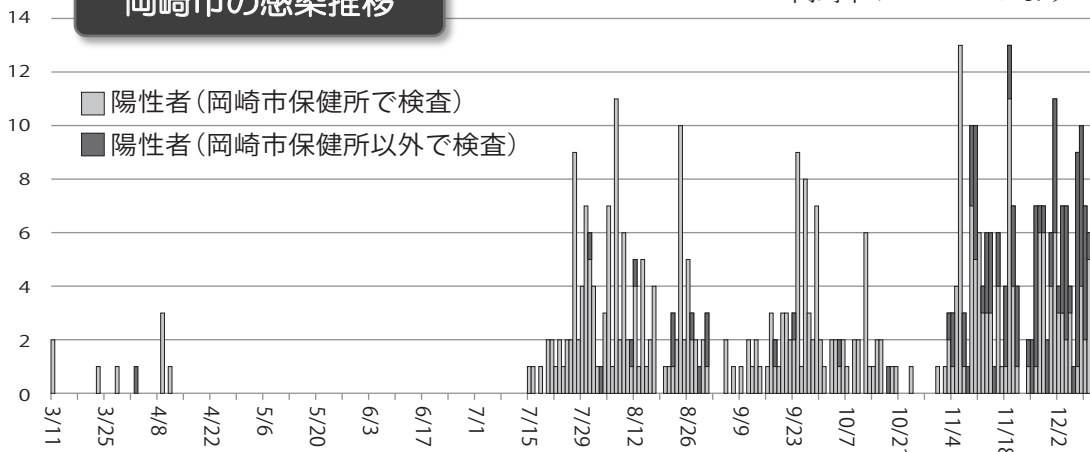
学校再開後、マスクやフェイスシールドの着用、手洗い、手指消毒の徹底、教室の換気や検温など、学校生活において基本的な感染症対策の徹底を図るとともに、子供たちの安全意識の向上と定着に努めている。

同時に各学校では、感染症対策の徹底を図りながら、学校行事や学習活動など、今だからこそのできることを工夫し、教職員と子供たちが力を合わせ、新しい生活様式の中で、日々の学校生活を送っている。

今後も、子供の健康と安全を第一に考え、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図るとともに、感染症と共存していく道「新しい生活様式」の構築と、予防意識の習慣化を目指していく。

岡崎市の感染推移

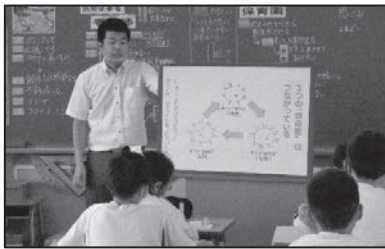
岡崎市ホームページより



授業・行事における取り組み例



▲コロナについて知る学校保健委員会（竜海中）



▲コロナによる差別をなくす道徳の授業（岡崎小）



▲ポータブル拡声器とフェイスシールドを使った授業（竜海中）



▲距離をとり、フェイスマスクを付けての合唱練習



▲「緑っ子体育フェスティバル」関係学年保護者1名の参観（緑丘小）



▲野外ステージを使った合唱コンクール（新香山中）



▲修学旅行。密にならない配慮をしながらの食事（美合小）

・私たちのために、行ってくださって思い出になりました。
・自分たちで自分を守らないといけない。みんなでコロナを乗り越えられるようにしたい。



教師の声

・休校期間があり、授業のようになりました。iPaの人数を減らすっています。
・子供たちが、自ら新しい機会となり、前向きな方を育てることができ



▲マスク着用で、間隔を開けた体育大会の応援。（東海中）



▲マウスシールドをのせての学習発表会（連尺小）



▲距離を保ち学校の校庭で行ったキャンプファイヤー（矢作南小）

運営面における取り組み例



▲アクリル板の設置



▲水道のハンドルをレバー式に交換



▲発熱対応第2保健室

日常の取り組み例

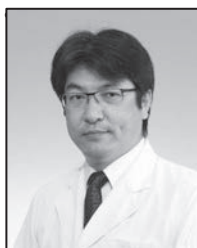


▲ソーシャル・ディスタンスの確保（広幡小）



▲毎日のこいの実施

と、対応していいと思います。



特に、教室で気をつけていただきたいのは換気です。常時、換気ができるよう工夫をお願いいたします。また、三密で大声を出すと、マイクロエアゾルによる飛沫感染の可能性がります。できるだけマスクなどを着用し、他の人との距離を取ることが重要です。共通意識をもつて、対応していいと思います。

市内でもクラスターが発生し、多数の入院患者が発生しています。また、感染経路不明者も多く、知らない間に他人にウイルスを媒介している可能性もあります。実際に無症状でも病原体を保有している人が40%程度いるとされています。ウイルスを持ち込まない、持ち出さないために、マスクの着用や手指衛生などの、接触感染や飛沫感染の予防が非常に大切です。

藤田医科大学医療センター
呼吸器内科 感染対策室長
林 正道先生

With コロナ社会をどう生きる

運営面での現場の

- ・情報が錯綜する中、連絡や周知が大変でした。
- ・7時間授業や子供たち不登校対応、消毒作業り多忙に感じました。
- ・PTA活動の見直しをしました。開催行事を全面開催にしたりし、会費も見直しました。
- ・他機関との連携の大切さを感じました。

お知らせ

●教育最新情報

◆新しい時代の学校デザイン

Society5.0の時代を見据え、

国はギガスクール構想を打ち出し、学校のICT環境は飛躍的に改善されている。一方、新型コロナウイルス感染症により、新しい学校の生活様式が求められている。そのような中、教職員の働き方改革も大きな課題となっている。

国では「公立義務教育諸学校の教職員の給与等に関する特別措置法（給特法）」の一部改正が行われ、その中で一か月間の時間外在校等時間、四十五時間以内、一年間の時間外在校等時間、三六〇時間以内など、時間外在校等時間の上限が定められた。それを受け、県では、給特条例の一

部改正を行い、時間外在校等時間の上限について、令和三年四月一日を施行の時期と定めた。

各学校は、国や県の動きを受け、時間外在校等時間、四十五時間以内、三六〇時間以内の実現を目指し、改革の取り組みを進めていく。

未来を担う子供たちのため、それを支える教職員のために、岡崎市では、これからも新たな時代に向けた学校デザインを描いていく。

◆第五十四回愛知県教育研究論文

論文

令和二年度の愛知県教育研究論文では、実践の確かさ、論文としての完成度の高さが評価され、岡崎市から佳作二点が選ばれた。

日々の実践を論文としてまとめることは、手だての有効性を明らかにし、自らの授業を客観的に振り返ることにつながる。そのため、授業力向上を目指す上でも、大切な研

修の一つである。

子供たちの確かな力を付けるため、また教師としての力量向上を図るために、ぜひ論文執筆に積極的に取り組んでほしい。

○佳作

・福岡中学校 大本 満子

「能動的な学びにより、自己のよりよい生き方を探究する生徒の育成」

・三島小学校 研究推進部

代表 日置 正敏

「生活に身近な事象に対して問題意識をもち、主体的な追究を通して、考えを深める子供の育成
—『こと・ひと・もの』の三要素を生かした三島小学校教育の創造—」

○男子砲丸投

三位 福岡中 松田 流輝

○女子一五〇〇m

一位 六美北中 小嶋 聖来

二位 竜海中 壁谷 衿奈

○女子四種競技

一位 翔南中 林 美希

◆第2回愛知県中学生新人陸上競技大会

○男子一〇mH

二位 竜海中 杉浦 颯志

○男子八〇〇m

一位 城北中 宮下 颯汰

○男子三〇〇〇m

二位 南中 尾田 悠翼

三位 城北中 神田 悦士

○男子走高跳

二位 福岡中 大竹 翔太

○女子一〇〇mH

二位 矢作北中 大和 令奈

三位 南中 高塚 虹百

○女子八〇〇m

二位 矢作北中 内田 詩乃

○男子走高跳

出場 北中 高木 魁里

○女子一五〇〇m

一位 六美北中 小嶋 聖来

九位 竜海中 壁谷 衿奈

十四位 六美北中 鈴木 愛菜

○女子一〇〇mH

八位 城北中 片山 心菜

○女子四種競技

一位 翔南中 林 美希

(※日本中学記録・MVP)

○男子一五〇〇m

五位 竜海中 杉田 晃大

●表彰

◆第66回全日本中学生通信陸上競技大会アシックスチャレンジカップ

○男子一五〇〇m

五位 竜海中 杉田 晃大

◆第9回日本学校合奏コンクール二〇二〇全国大会

ソロ&アンサンブルコンテ

スト

ソロ部門

中学校の部ヴァイオリン

銅賞 福岡中 都築 那葵

銅賞 福岡中 都築 那葵

・カ
ツ
ト

矢作北中
中根勅子

芝生の運動場 (昭和51年)

写真提供：井田小学校



運動場のトラックの内側には、青々と輝く芝生があった。芝生の運動場はとても気持ちがよく、休み時間には温かい芝生の上で、子供たちが友達と仲良く遊ぶ姿が見られた。

井田小学校では、昭和四十八年の全国学校環境緑化コンクールに合わせて、運動場に芝生が張られた。あわせて、子供たちが遊び遊べるよう、環境整備にも努めた。当時、学校には、芝生の他にも、遊歩道や落ち葉スキー場、あひる池、野外演奏場などがあった。子供たちは、そんな環境の中で、多くの学習活動に取り組んだ。

岡崎市は、子供たちの学びのための環境整備に力を入れてきた。先のコンクールでも、これまで市内の多くの学校が特選に選ばれている。子供たちのすこやかな成長を支える学校環境づくりは、今も続いている。

特殊な職業だと杉浦氏は言う。答えない世界で、自分の言葉で道を切り開いてきた氏の言葉は重い。「文字」には力がある。チャンスをつかむのも、人を傷付けるのも言葉である。子供たちを支え、子供たちの未来を育てる私たち教師も言葉を大切にしたい。

とホ

睦月

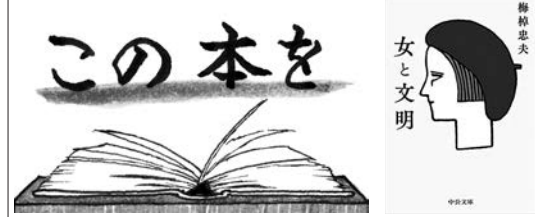


▲冬の風物詩 市民駅伝

報道に「新型コロナ」の文字や言葉が出ない日はない。今、できることは何かを問いかける。新しい生活様式の中、子供たち自ら考え、工夫し、実践する力が育まれる。子供たちの笑顔を守るため、コロナを知り、コロナと戦う。粘り強い取り組みが、今後も求められる。

ツ

「繋ぐ」。この一言に、この襟たすきにどれだけの思いが込められているだろう。例年とは異なる状況の中でも、グラウンドからは、「ファイト」「絶対できる」リズムのそろった足音と仲間を応援する声が聞こえてくる。子供たちの思いは、次の世代へ繋がっていく。



*女と文明 梅棹 忠夫 中央公論新書 ¥780

心に残った一文
コンピューター化がすすむなかで、人間の幕をどこにみつけるかを、女性たちも真剣にかんがえてゆくべきであろう

本書は、1988年に単行本で刊行されている。今から30年以上も前のことだ。著者の驚異的な予測力に感嘆する。IoTの実現により、家事などは人がやらなくてもよくなるかもしれない。残るのは子育てで、これも男女が共同して行う。ジェンダーフリーの取り組みが進み、今より女性が社会進出をしていく。人が果たす役割について意識改革が必要だとわかる。男女を問わず、新たな文明社会の担い手を育てていく必要がある。

- *みんなの「わがまま」入門 富永 京子 左右社 ¥1,750
- *目からウロコ! 赤木 和童 全障研出版部 ¥1,800
- *天地明察(上・下) 沖方 丁 角川文庫 ¥552
- 常磐小 近藤久美子